

建築版	4-2	躯体工事 間仕切工事	設備工事： 防火・防煙区画貫通処理	電気	○	設備工事 ポイントシート (4-3)
				空調	○	
				衛生	○	
				その他	—	

建築確認申請図の区画図に防火区画（赤線）、防煙区画（緑線）で表され、建物の防災上最も大切な機能の一つです。防火区画（赤線）には、面積区画、縦穴区画、異種用途区画、水平層間区画の4種類があります。また学校や病院の廊下と教室や病室の境には「114条区画」と呼ばれる区画があります。それら区画を貫通する設備にも同等の性能が求められます。

ポイント

■設備の施工要領書

- ・区画貫通は、設備、部位、区画種類、壁の種類等の項目ごとにリストに整理し管理用に記号・番号を付けます。
- ・区画処理工法の認定書の内容も盛り込み、認定条件と適合していることを確認します。

■設備の施工図

- ・区画と貫通処理の部位を明確にし、要領を出来るだけ施工図に記載するようにしましょう。
- ・区画貫通処理箇所は、フロアあるいは工区毎に番号を付けましょう。

■設備の検査と記録方法

- ・一工程の施工、期中の施工の確認を確実にし、記録を写真（全体と認定工法シール拡大を1セット）に残しましょう。
- ・検査は「項目」「単位」「頻度」を協力会社と協議し、着手前に定め施工要領に含めるようにしましょう。

先輩アドバイス

- ・確認申請図の控えコピーは建築・設備関係者全員で共有し、建築と設備で整合を取り施工管理することが大切です。特に間仕切り壁の位置が変更された場合は注意が必要です。
- ・工事を行う作業員は明確にしておきましょう。（専門工事会社、電気、配管工、保温工、雑工）
- ・施工図において、区画貫通部が多く、番号等を記載すると煩雑になる場合、区画処理専用で作成する方法もあります。

チェック項目

- 設備の要領書でリストに整理し、管理用に記号・区画処理工法の認定書の内容を盛り込んでいますか。
- 設備の施工要領書で定めた材料、手順で施工されていることの記録を写真に残すことができますか。
- 建築では、設備の貫通処理が全数終了・記録されたことを設備担当者に確認しましたか。

失敗すると...

- ・要領書、施工図の内容が不十分であると、意図しない施工がなされ手戻りの原因となります。また、施工の記録を怠ると問題発生時に責任の所在が不明確となるので注意が必要です。

設備の区画貫通処理リストの例

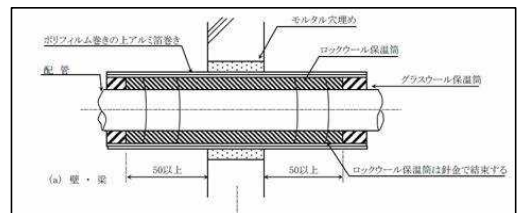
設備	工法記号	認定番号	部位	区画タイプ	備考
電気					
配管	E-壁-1a	〇〇〇	壁	片面2枚貼	
ケーブル	E-壁-1b	△△△	壁	両面2枚貼	
ケーブル	E-壁-1b音	□□□	壁	両面2枚貼	遮音
配管	E-壁-1c	×××	壁	1ツカト	
ケーブル	E-壁-2	〇〇〇	壁	片面2枚貼	
CR	E-床-1	△△△	床	1ツカト	
配管	E-床-2	□□□	床	1ツカト	
・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	
衛生					
	P-壁-1				
	・・・				
空調					
	A-壁-1				
	・・・				



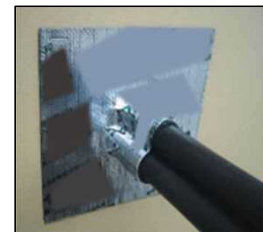
設備施工記録(写真)の例

工事名				
撮影日	平成	年	月	日
撮影箇所				
電気工事 防火区画処理工事	①	②	③	④
3階 区画処理番号①				
配管床貫通部				
認定工法番号 〇〇〇				
株式会社 株式会社				
施工者 (サブコン名)	実施者	(氏名)		

工事看板の例



躯体防火区画の貫通処理例



乾式間仕切防火区画の貫通処理例

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・ 性能向上	工期短縮 ・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	○	○	—	—	—	○	—	—	○
備考	参 考 文 献 :						初版発行	2020年12月	
							改訂		